

「供養」という言葉を聞いたことがないという人はほとんどいないかもしれません。それほど日本人には浸透している言葉だと思えます。

一般的な「供養」は、

① 仏さまや故人に対して、私たちが善い行為をふりむけて、

② 冥福を願うことです。正式には、追善供養（ついぜんくよう）と

言います。

浄土真宗で

浄土真宗には「供養」はありません

は供養という考え方はしません。その理由をお示しします。

まず、①です。そもそも善い行為とはなんでしよう。例えば、怪我をした動物を助けたとしましょう。一見、慈悲深い行為に見えるかもしれせん。でもその行為は、自然の摂理から考えると、他の動物のえさを奪ったことになりす。

また、受験勉強で自分の子

どもを合格させようとして塾に入れるとします。しかし、それはよその子を不合格にする行為です。

私も子供を塾にも入れませんが、他のお子さんの合否には目を向けず、まず自分の子どもを合格させようと行動を起こします。

あるいは、お金の無駄遣いはしないように家庭では教え

るのに、会社やお店では、なるべくお金を使わせようとしす。「コンビニのレジ横に、百円位のお菓子を置く理由をご存知ですか？レジでお金を払う時、必要ではないけど、ついでにこれも」と思って買わせるためだそうです。行為は、立場によって善にも悪にもなり得ます。このような社会で生

活している私たちの行為を「善」と言えるのでしょうか。

浄土真宗は、私たちの社会的行為を否定や肯定をしているのではありません。私たちの行為には善と悪が入り混じっている可能性がありません。ですから、「善」を大前提にした供養する時の心に疑問があるということなのです。ご法事をおつとめする時、私たちが亡くなった方に、

「善」をふりむけるのではなく、亡くなった方

が私たちに、善悪の基準を教えてください。と、気づかせていただきたいものです。

次に、②に関してですが、これはただ、亡くなると同時に仏に成るから、私たちが死後の幸福を願う必要がないからです。むしろ、亡くなった方が、私たちの幸福を願っているのです。

（山崎龍法）